



石森 晃寿 議員

- 1、「道の駅」構想について
- 2、震災復興業務に携わるマンパワーの確保について

Q 2年前の市長の選挙公約では、「三陸自動車道の矢本パーキングを活用した地域振興に努めます」となっている。そこで、矢本パーキングと隣接する市有地を含めたエリアを「道の駅」とする構想は、いかがか。「道の駅」は、これまで、全国で1,145カ所、宮城県内には、

13カ所設置されている。「道の駅」は、ご承知のとおり、24時間、無料で利用できる駐車場、トイレなどの「休憩機能」、道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報などの「情報発信機能」、文化教養施設などの「地域連携機能」を併せ持つ休憩施設である。市長の考えを伺う。

A 市長 私の選挙公約に掲げている、矢本パーキングを活用した地域振興策は、1日に35,000台以上の交通量のある三陸道矢本パーキングを活用するものである。

隣接する市有地を含めた「道の駅」構想は、地方創生を具体的に実現でき、本市の地域経済振興を図る上で、極めて有効と考える。「道の駅」には、6次産業化につなげるため、石巻地方の特産品を扱う店舗整備を想定。「東松島市のノリ、カキ、石巻市の笹かまぼこ、クジラ肉、女川町のホヤ、サンマなど地域のおみやげを買い取る場所にして経済振興につなげたい」と考えている。具現化するには、さまざまな高いハードルもあり、国土交通省に要望活動を行う。



▲道の駅構想を掲げる三陸道矢本パーキングエリア南東部



▲既存の観光ツールに加え、新規のツールの活用が必要 ※写真はイベント開催時の石巻駅前の様子



齋藤 徹 議員

- 1、本市観光事業と県観光キャンペーンとの連携を問う

Q ①県観光キャンペーンでのポケモンGOの活用が、宮城オールのイベント等で計画されているが、どのような連携を企画しているのか。

②周辺自治体と比べ、アイテム獲得手段であるポケストップ等のゲーム内インフラが貧弱であり、ゲーム内のインフラ整備

強化はイベント成功に不可欠であるが、全国各地から流入するポケモンレーナー（ユーザー）を対象とした本市としての「おもてなし」をどのように認識しているのか。

③気仙沼市唐桑オルレの差別化の有無は。④県のPRはもろんであるが、市として独自のPRの計画は。

Q 本市観光事業と県観光キャンペーンとの連携を問う

A 県に対し提案、協議等を行う



市長 ①平成31年度の県観光キャラクターは、上半期サザエさん、下半期はポケットモンスターラプラスと報道されている。

家族・親しみをキーワードに家族連れ観光客を宮城オルレ奥松島コースへの誘客を図る。活用方法については、県、キャラクター、管理会社と協議し、提案を行う。

②県キャンペーンでのポケモンの出現は現段階では不明だが、観光振興に有効な提案をしていく。

③宮城オルレ全体での発展を目指す。両コースの周遊、連携をより深める。

④観光PRキャラクターの活用に当たり、観光のみならず本市のイメージアップにつなげるのが重要。県と管理会社の協議内容を踏まえ、PRする。